

学校再編計画(案)について

～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～

【これからの学校教育とは】

こらからの学校教育は、子ども達の「生きる力」を育成することが求められている。このような教育を実現するため教育委員会及び各学校では、教育内容・教育活動及び環境等の整備充実に取り組んでいる。



【現状での課題】

現在我が国で進行している「少子化」は、教育目標を達成するうえで大きな影響を及ぼしており、「少子化に対応した活力ある学校づくり」が最も重要な課題の一つとなっている。



【課題に対応するため】

このような課題に対応するため、「今後の学校の適正規模、適正配置をどのようにしていけばよいのか」について検討し、子ども達にとってより良い教育環境を提供していく。そのため杉戸町教育委員会では、文部科学省が一定の基準を示す「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考として「杉戸町立小中学校通学区等審議会」の意見を伺いながら「杉戸町立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本方針」を作成した。



杉戸町立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本方針 (適正規模の基準)

【小学校の望ましい規模】 12学級から18学級

【中学校の望ましい規模】 9学級から18学級

(適正配置の基準)

【小学校の通学距離】 おおむね4km以内

【中学校の通学距離】 おおむね6km以内

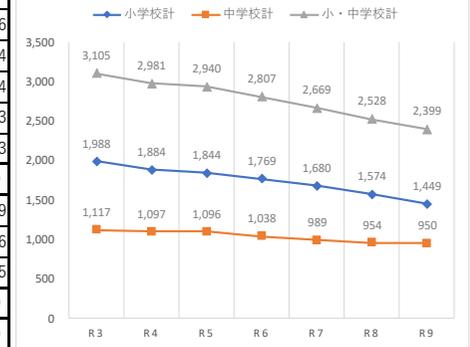
【通学時間】 おおむね1時間以内

杉戸町立小・中学校「児童生徒数の今後の推移」【予測】

令和3年5月1日現在 単位：人

学校名	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
杉戸小学校	654	618	616	592	560	504	459
杉戸第三小学校	220	213	220	214	204	184	176
西小学校	293	288	277	288	269	271	254
杉戸第二小学校	432	412	407	378	359	338	304
泉小学校	131	119	102	87	82	75	63
高野台小学校	258	234	222	210	206	202	193
小学校計	1,988	1,884	1,844	1,769	1,680	1,574	1,449
杉戸中学校	690	694	693	636	604	566	569
東中学校	111	90	82	75	70	61	56
広島中学校	316	313	321	327	315	327	325
中学校計	1,117	1,097	1,096	1,038	989	954	950
小・中学校計	3,105	2,981	2,940	2,807	2,669	2,528	2,399

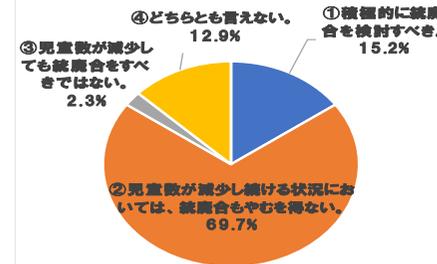
児童生徒数の今後の推移【予測】



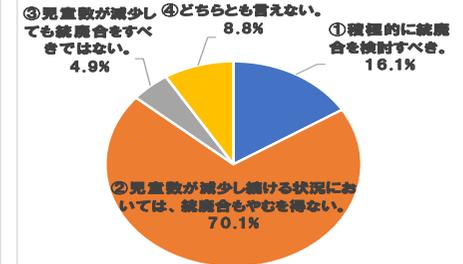
WEB アンケート 調査結果抜粋

Q 少子化の影響で児童数が減少しており、今後もその傾向が続くと予測されています。学校の統廃合も選択肢のひとつとして考えられますが、あなたの考えに一番近いものを1つだけ選んでお答えください。

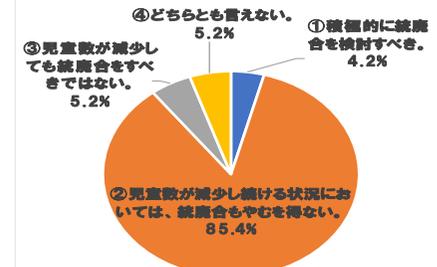
5歳児の保護者



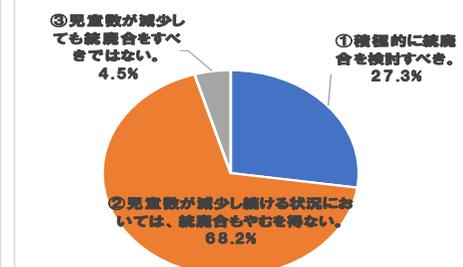
小学3・5年生の保護者



教職員



学校評議員・運営協議会委員



学校再編を進めるうえでの基本的な考え方

- ① 児童・生徒にとってより良い教育環境の提供
- ② 持続的・安定的な教育の推進
- ③ 地域と学校との関わりに配慮

基本方針の適正規模の基準から外れる小学校

各小学校の学級数（令和3年5月1日現在）

令和3年度（1～2学年35人学級）		令和9年度（全学年35人学級）	
杉戸小学校	19学級	杉戸小学校	16学級
杉戸第三小学校	8学級	杉戸第三小学校	6学級
西小学校	11学級	西小学校	10学級
杉戸第二小学校	13学級	杉戸第二小学校	12学級
泉小学校	6学級	泉小学校	6学級
高野台小学校	11学級	高野台小学校	8学級

西小学校・高野台小学校

→ 高野台小学校へ編入統合

- ・ 2校ともに小規模化していく状況に鑑み、2校を統合する。
- ・ 校舎等の学校施設の状況から、施設の新しい高野台小学校への編入統合とする。
- ・ 統合校の学区については、これまでの地域と学校との関係を継続するため、西小学校及び高野台小学校の現在の学区とする。ただし、一定の条件を満たす場合については、通学区域の弾力的運用を検討する。

小学校通学区域図（案）



小学校再編案

